様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　５日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2012
課題番号：22520355
研究課題名（和文）
モダニズム芸術における解釈学的戦略と救済の論理
研究課題名（英文）
Hermeneutical and Quasi-religious Strategies in Modern Art
研究代表者
吉村　正和（YOSHIMURA MASAKAZU）
名古屋大学・国際言語文化研究科・名誉教授
研究者番号：10033408

研究成果の概要（和文）：
本研究「モダニズム芸術における解釈学的戦略と救済の論理」においては、20 世紀初頭以降のヨーロッパにおけるモダニズム芸術運動が単なる美学的課題に終始していたのではなく、18 世紀以降の科学的合理主義の影響下で揺らぎはじめた伝統的宗教に代わって人間の霊性救済を最終目標としていたことを、錬金術・魔術・カバラー・神智学など西洋エソテリシズムに接続する運動とみなすことによって検証する。

研究成果の概要（英文）：
This project of Hermeneutical and Quasi-religious Strategies in Modern Art examines how the European avant-garde artists in the beginning of the twentieth century have extensively adapted the esoteric discourses on alchemy, kabbalah, magic and theosophy to their artistic expression of quasi-religious ideas including transmutation and transcendence.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
総　計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：（分科）文学・（細目）各国文学・文学論
キーワード：モダニズム芸術、解釈学、神智学、錬金術、エソテリシズム

１．研究開始当初の背景

錬金術・神智学・ユダヤ教神秘主義カバラーのモダニズム芸術への影響については、欧米の学界では神秘思想への偏見のために長い間等閑視されてきたが、オカルティズム（最近では、広くエソテリシズムと呼ばれる）への強い志向を考慮することなく正確に 20 世紀初頭のヨーロッパの危機的な精神状況を把握することはできない。申請者は、平成 17～18 年度には「トランスレーション言

説分析と神秘思想の機能に関する研究」、平成 19～20 年度には「トランスレーション言説の解釈学的戦略に関する研究」という 2 件の科研課題（いずれも基盤研究（C））を通して、「翻訳（トランスレーション）」という宗教的領域とは一見程遠いように見える行為でも、トーラー解釈というユダヤ教の基本的思考法に見られるように、言語の外面的な意味を超えて神的言語に接続する要素が含まれていることを確認した。さらに、20 世紀までのヨーロッパにおける神秘思想の社会精神史的な意義については、平成 13～14 年度の「ユートピア都市共同体の形成とその宗教的メカニズム」と平成 15～16 年度の「19 世紀のイギリス心霊主義の社会精神史的意義に関する研究」という 2 件の科研課題（いずれも基盤研究（C））を通して、オーウェン共同体から 20 世紀初頭の田園都市運動へとつながるイギリス社会主義が千年王国主義などの宗教的メカニズムに裏打ちされていること、19 世紀の心霊主義の展開が周縁的な精神運動でありながら文化深層に深く根ざす疑似宗教的な現象であったことを確認した。以上の研究成果の一部は、平成 22 年 1 月に『心霊の文化史』〔吉村正和、単著、河出書房新社〕において公開した。本研究「モダニズム芸術における解釈学的戦略と救済の論理」は、以上の 4 件の研究に欠如していた部分を補完しつつ最終的な結論をとりまとめ、これまでと異なるヨーロッパ像を構築するプロジェクトと位置づけることができる。

２．研究の目的

本研究「モダニズム芸術における解釈学的戦略と救済の論理」においては、20 世紀初頭以降のヨーロッパにおけるモダニズム芸術が単なる美学的課題に終始していたのではなく、科学的合理主義の影響下で揺らぎはじめた伝統的宗教に代わって人間の霊性救済を最終目標とする疑似宗教的な精神運動であり、この傾向は 20 世紀が終焉した現在の時点においても存続していることを検証する。美学・芸術学・文学の視点からのモダニズム芸術（特に抽象絵画の分野）およびモダニズム詩学の研究については枚挙にいとまがないほど提出されているだけでなく、そうした芸術運動の根底には宗教的課題が横たわっていると指摘する研究も少なからず存在している。しかし、モダニズムと結びつく「宗教」とは伝統宗教とは異質の構造から成る周縁的な精神運動、すなわち神智学あるいはユダヤ教神秘主義カバラーであり、そうしたいわば「代替宗教」の提示した霊性救済の課題こそ 20 世紀初頭のモダニズム芸術の最終目標であったという立場から分析したものはそれほど多くない。本研究においては、神智学がモダニズム詩学と芸術に与えた影響、ユダヤ教神秘主義カバラーなどの発想が現代芸術理論の生成に不可欠の要素であることを検証し、その根底には近代（特に啓蒙主義以降）が成立して以来「代替宗教」が引き受けることになった霊性救済という宗教的課題が胚胎していることを考察する。

３．研究の方法

西洋エソテリシズムは想像以上に広くまた深くヨーロッパ思想に浸透しており、まずそれぞれの分野における基本文献を整理することが必要となる。過去 10 年ほどの間にもアムステルダム大学、ソルボンヌ大学、エクスター大学、ミシガン州立大学、ノースウェスターン大学などを拠点としてエソテリシズム研究が急速に進んでいる。The European Society for the Study of Western Esotericism などのような広域的な研究グループのほか、Exeter Centre for the Study of Esotericism のような教育研究機関の活動も

注目される。このような経緯から生まれた成果として、たとえば Simon During, *Modern Enchantments: The Cultural Power of Secular Magic* (Harvard University Press,2002)、Alex Owen, *The Place of Enchantment: British Occultism and the Culture of the Modern* (The University of Chicago Press, 2004)、Bruce Morgan, *Distlling Knowledge: Alchemy, Chemistry, and the Scientific Revolution* (Harvard University Press, 2005)、Alfred J. Gabay, *The Covert Enlightenment: Eighteenth –Century Counterculture and Its Aftermath* (Swedenborg Foundation, 2005)、Marsha K. Schuchard, *Why Mrs Blake Cried: William Blake and the Sexual Basis of Spiritual Vision* (Random House, 2006)、Wouter Hanegraaff, ed., *Dictionary of Gnosis and Western Esotericism* (Brill, 2006)、David Harrison, *The Genesis of Freemasonry* (Lewis Masonic, 2009)、Alison Butler, *Victorian Occultism and the Making of Modern Magic: Invoking Tradition* (Palgrave Macmillan, 2011)、Urszula Szulakowska, *Alchemy in Contemporary Art* (Ashgate, 2011) などがあるが、こうした文献を参照することにより、その全体像を捉える。加えて、現在では入手できない文献あるいは視覚芸術資料については、平成 22 年 7 月、平成 23 年 5 月、平成 24 年 10 月に大英図書館、ロンドン大学中央図書館、ウォーバーグ研究所図書館、ウェルカム図書館及びテイト・モダンを中心に、西洋エソテリシズムとモダニズム芸術関係の資料調査を行う。

４．研究成果

平成 22 年度の研究成果の一部については『図説フリーメイソン』（図書③）において公開したが、そこでは近代的人間像が 18 世紀に表舞台に登場したフリーメイソンのさまざまな系譜に表現されていることを確認した。啓蒙主義の理性主義がフリーメイソンの主流を形成したとすれば、一方において神秘主義もそれと並行するかたちで成長し、フリーメイソンの副流を形成することになる。啓蒙主義は厳格な理性のもとで啓示宗教を排除する方向に向かうが、超自然的世界に対する人々の想いと憧れは一夜にして消えるようなものではなかった。超越神の座をめぐってさまざまな神秘主義が登場し、とくにフランスとドイツでは神秘主義と融合しながら疑似宗教ともいうべきフリーメイソン運動を展開していく。啓蒙主義の理性主義への反撥から登場したロマン主義は、理性に代わって想像力を人間の神的能力としている。その意味において、啓蒙理性はロマン主義によって否定されたのではなく、その人間中心的な系譜を前提にしつつ理性を補完する能力として想像力を位置づけた。近代の自己形成による人間の完成とは、理性とともに想像力の十分な覚醒によって到達される境域であり、そうした人間（市民）の構成する共同体（社会）の建設を理想とみなした。「完成」あるいは「完成可能性（perfectibility）」は、フリーメイソンを含む近代のプロジェクトを理解するためのキーワードといえる。フリーメイソン研究に関する最近の傾向についても言及し、フリーメイソン・ロッジを公共空間の代表的な場とみなすという視点を紹介した。啓蒙主義という机上の理論も公共空間を具現したアソシエーションを通して育成され、民主主義もその土壌から成長することが可能となったとみなされる。

平成 23 年度の研究成果の一部については『図説錬金術』（図書②）において公開したが、そこではカバラーと神智学に並んで西洋

エソテリシズムの3本柱を形成する錬金術に焦点を当て、モダニズム芸術との関連性について検証を試みた。モダニズム芸術についてはまず、カンディンスキーを昨年度に継続するかたちで調査した。カンディンスキーにとって精神的・内的なものをいかにして色彩と形態によって表現するかという課題を解く鍵となったのは、精神的なものは物質的なものの無限に純粋化されたものにほかならないという発想であり、物質と精神の間の境界を消去して両者の連続性を強調する姿勢であること、さらに、20世紀初頭に始まるダダ運動を受けて登場したシュルレアリスムにおいても、夢と現実という本来は重なることのない二つの領域が「絶対的な現実」すなわち「超現実」に融解するというように、対立する二元性の止揚を主張する点においてモダニズム芸術と西洋エソテリシズムの間には親縁性があることを確認した。

平成 24 年度の研究成果の一部については『図説近代魔術』（図書①）において公開することになるが、そこでは主として 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて登場した魔術結社の動向をたどり、そこから登場するモダニズム芸術の在り様を検証する。19世紀後半に科学的合理主義への反発から登場した西洋エソテリシズム（代表的な結社として英国薔薇十字協会、神智学協会、心霊研究協会、黄金の夜明け教団など）は、20世紀に入ると、その具体的な表現の場を求めて芸術の分野に進出していく。魔術とは、想像力と意志を駆使することによって深層心理が期待することを現実世界において実現しようとするいわば「共同幻想」であり、この魔術的な世界観がモダニズム芸術に反映されていることを確認した。モダニズム芸術の源流としては現実的な視覚効果を重視する印象主義があるが、真の意味でのモダニズム芸術が登場するのは抽象絵画においてである。抽象絵画の美学的な根拠を提供したのは、カンディンスキーやモンドリアンの場合には神智学であり、シュルレアリスムの場合には錬金術・魔術である。錬金術・魔術は古代・中世以来ヨーロッパの深層に横たわる思考法であるが、近代においては合理主義的・科学主義的な視点を踏まえて読み直されている点に特質がある。伝統的な神秘主義が神を中心とするシステムであったのに対して、近代エソテリシズムは個人の完成を最終目標に掲げる精神運動と位置づけることが可能であり、モダニズム芸術もまた、影響力を失った伝統宗教に替わって精神的な枯渇・不毛状態からの脱却（救済）を目指す擬似宗教の一種であったことを明らかにした。ただし、西洋エソテリシズムの研究は、その全体像を捉えるには平成 22 年～24 年という期間では時間的に不十分であり、今後さらに数年にわたって同プロジェクトを継続していく必要がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔図書〕（計３件）

① 吉村正和、『図説　近代魔術』、河出書房新社、2013 年 10 月（予定）、１－117 頁。
② 吉村正和、『図説　錬金術』、河出書房新社、2012 年 1 月、１－117 頁。
③ 吉村正和、『図説　フリーメイソン』、河出書房新社、2010 年 8 月、１－117 頁。

６．研究組織
(1)研究代表者
吉村　正和（YOSHIMURA MASAKAZU）
名古屋大学・国際言語文化研究科・名誉教授
研究者番号：10033408
(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
なし